

行政視察報告書

1. 視察日時及び視察地

令和6年8月20日(火)	13:30～15:00	広島県神石高原町	…(1)
令和6年8月21日(水)	13:30～16:30	岡山県真庭市	…(2)

2. 視察内容

(1) 広島県神石高原町	ドローンの活用について
(2) 岡山県真庭市	木質バイオマスについて

3. 視察参加者

会派 新風

堤議員、栗原議員、川口議員、高山まさのぶ

随行職員 3名

高山 正信

(1) ドローンの活用について

・広島県神石高原町概要（令和6年8月1日現在）

人 口：7,885 人 世帯数：3,761 世帯 面 積：381.98 Km²

広島県の東部に位置し、北は東城町、南は福山市、東は岡山県、西は府中市、総領町と接している。

中国山地が広島県東部で南に張り出した高原地形の中に位置しており、標高は400m～500mとなっている。

基幹産業である農業では、寒暖差によって甘みがぎゅっとつまったトマトなどの美味しい高原野菜が出来上がります。有機野菜の栽培や、日本一の生産を誇る和玉（在来種）蒟蒻芋の栽培、こだわりのピオーネやりんご、ブルーベリーといった果物栽培も盛んである。

もちろん、仕事は農業だけではなく、大手メーカーの工場をはじめとして各種事業所も存在します。

・視察概要

1. 視察の目的

- ・神石高原町におけるドローンの活用状況や、地域課題解決に向けた具体的な取り組みの確認。
- ・他の自治体におけるドローンの活用事例を学び、町の発展やサービス向上への応用を模索する。

2. ドローン活用の具体的な分野

- ・農業分野：作物の成長状況の監視、害虫の早期発見や予防、農薬散布の効率化。
- ・防災・災害対策：災害発生時の被害状況把握、迅速な情報収集や救援活動の支援。山間地域が多い神石高原町では、アクセスが難しい地域でもドローンによる情報収集が可能。
- ・観光プロモーション：町の観光資源を空撮映像でPRし、魅力発信や観光誘致の強化を図る。
- ・インフラ点検：道路や橋梁、公共施設などの点検にドローンを活用し、効率的かつ安全なインフラ管理を目指す。

3. 視察内容と他自治体の先進事例

- ・自治体との連携：ドローン活用を積極的に推進する他の自治体での運用方法を学ぶ。特に、ドローン専用の飛行エリアの整備や、ライセンス取得支援制度の導入など。
- ・実際のデモンストレーション：ドローンによる災害時の物資輸送や農業での利用例などの実演を視察し、技術の可能性と実用性を体感。
- ・導入に向けた課題と解決策：ドローン導入に伴う法的・技術的な課題や、住民の理解を深めるための取り組み。

4. 今後の導入計画と課題

- ・人材育成：ドローン操縦士の育成

・まとめ

令和元年度よりドローンの社会実験や活用の推進を目指して共同事業体を立ち上げ、災害状況の把握や救援物資の輸送など、災害対応における手段としての有効性が実証されており、今後もドローンを活用した様々なプロジェクトが計画されている。本市でも災害状況の把握にはドローン活用がなされているが、各課横割りで活用されており、ドローン全体のとりまとめる、部署の必要性を感じた。

また、本市でのドローンを活用する場合は、災害時に限らず他の行政サービスでの活用も模索することが出来ると感じた。しかし、実戦配備を考えた場合にドローン本体の規格（規模）やサービス利用に適した機種選定、メンテナンスには課題も多い点や操作する人材育成にも課題が残るが、民間活力の協力や市内でドローンの事業展開している個人や事業所などに対して『災害協定』も含め、行政としていまできることについて、政策提言に向けた調査を継続していく必要があると感じた。

(2) 木質バイオマスについて

・広島県真庭市概要（令和6年8月1日現在）

人 口：41,037 人 世帯数：17,443 世帯 面 積：828.4 Km²

岡山県北部で中国山地のほぼ中央に位置しており、北は鳥取県に接し、東西に約30 km、南北に約50 kmの広がりを見せています。総面積は約828平方kmで、岡山県の約11.6%を占める県下で最も大きな自治体です。

その広大な土地の地形上の特徴である南部と北部での気候風土の違いを、それぞれ豊かな自然環境と土地・労働力・資本を活用し、特色ある農業振興を推進している。

気候は年間を通じて比較的穏やかで、台風や地震などによる災害も総じて少ない地域です。

・視察概要

1. 視察の目的

- ・真庭市が取り組む木質バイオマス事業の現状と、その運用方法を学ぶ。
- ・他の地域への応用可能性を探り、地域資源を活用した再生可能エネルギー導入の可能性を検討する。

2. 木質バイオマス活用の背景と狙い

- ・森林資源が豊富な真庭市では、林業の活性化や森林管理を進めるため、間伐材や廃材を活用した木質バイオマスが注目されている。
- ・環境負荷の低減と、エネルギーの地産地消による持続可能な地域社会の構築を目指す。

3. 他地域での導入に向けたポイントと課題

- ・供給体制の整備：木質バイオマス燃料の安定供給のための林業従事者の育成や、供給サプライチェーンの構築。
- ・コスト面：バイオマス施設の初期投資や維持コスト、他のエネルギー源とのコスト比較。行政支援や補助金の活用方法も学ぶ。
- ・環境保全と地域経済のバランス：木材利用と森林保全を両立させるための計画や方針の立案。

4. 視察での学びポイント

- ・地域経済の活性化：林業を基盤とする新たな雇用創出や、地域内でエネルギー収入を循環させるモデル。
- ・環境意識の向上：市民や事業者への啓発活動、地域住民の参画を促す方法。
- ・持続可能なエネルギー利用の実例：真庭市における実績から、再生可能エネルギーとしてのバイオマス利用の可能性を実感。

5. 今後の導入検討事項

- ・適切な施設選定：自治体の規模や森林資源の量に応じた適切なバイオマス活用施設の導入。
- ・地域の特性に合わせた計画：燃料供給量や費用対効果を考慮した、長期的な視点での地域エネルギー計画の検討。

・まとめ

行政として民間事業者との信頼関係をいかに築いていくかというところが重要で、行政が主導するのではなく、むしろ、サポート役にまわる方がうまくいく。こうした取り組みにより、地域の林業・木材産業の拡大はもとより、雇用の拡大、森林機能の回復、観光振興など、様々な分野の活性化が着実に行われています。全国的な森林問題がある中で、真庭市においては産学官の連携が取れており、森林の地域循環型のシステムが完璧に構築されています。

広大な森林面積を持つ、八女市で一番大事な事は、山主にどれだけ還元ができるかどうか、要は業として成立すれば間伐や山の手入れは行き届く、その為には出口づくりが最重要であると認識しました。

ただ、意識すべきは、売上よりもコストであり、近隣で同様の動きが出てきた場合、原料の奪い合いなど原材料の高騰への対策はどうするかなど、まだ見えない課題はありますが、豊富な森林資源がある八女市においては早急な調査研究が必要だと感じた。